

株式会社アドバンテスト
会社説明会

2010年4月27日
代表取締役 兼 執行役員社長 松野 晴夫

2009年度 決算報告 第4四半期は営業黒字

- まず、2009年度の決算について
- 当第4四半期の営業利益 14億円
 - ・ 今年1月の決算発表時にはトントンと予想
 - ・ 最終的には予想を14億円上回った
- その主な理由
 - ・ 売上高が予想を12億円上回った
 - ・ 製品ミックスの改善（メモリ・テストの増加）

業績の概要		ADVANTEST.								
		(単位: 億円)								
		2009年度								
		1Q	2Q	3Q	4Q			通期		
1月発表 の予想	実績				前期比 (%)	1月発表 の予想	実績	前期比 (%)		
受注高	116	144	187	203	230	+24.0	650	677	+35.2	
売上高	76	112	129	203	215	+67.4	520	532	-30.6	
売上原価	33	54	86	-	100	+16.1	-	273	-52.0	
売上総利益	43	58	43	-	115	+170.7	-	259	+30.9	
営業利益	-45	-35	-50	0	14	-	-130	-116	-	
営業外収支	8	8	0	-	1	-	-	17	-	
税引前純利益	-37	-27	-50	-1	15	-	-115	-99	-	
当期純利益	-38	-33	-57	-7	13	-	-135	-115	-	
受注残	98	131	188	188	203	+8.0	188	203	+250.4	

3

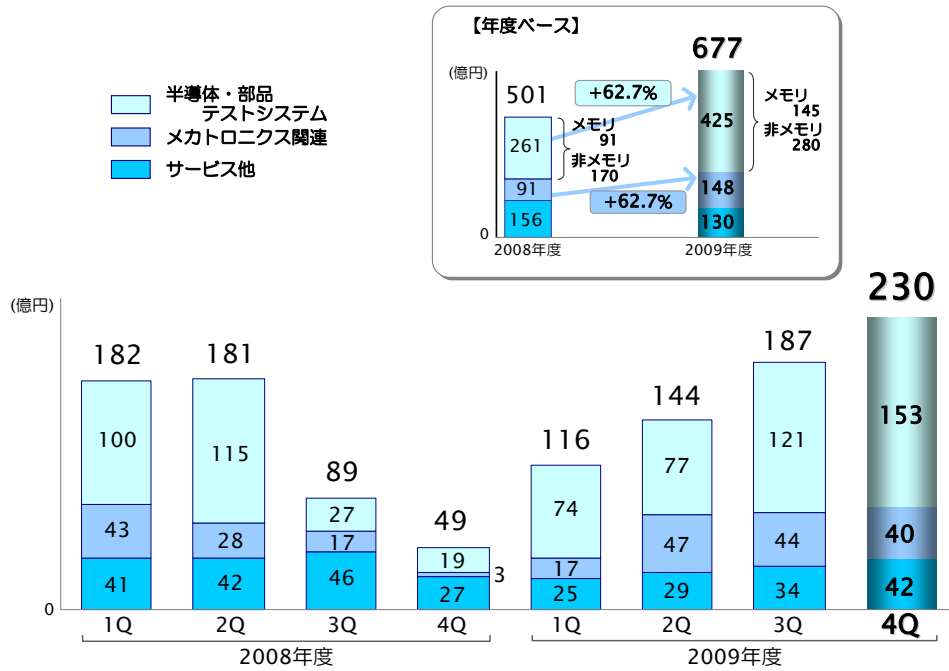
All Rights Reserved - Advantest Corporation

2010/4/27

- 2009年度の業績概要
- ・受注高 677億円
前年度比 35%増と大きく回復
- ・売上高 532億円
前年度比で31%減少したが
四半期ベースでは、第1四半期を底に、
その後は受注の増加に伴って順調に回復
- ・受注残 203億円
- ・営業利益 116億円の損失
前期（495億円の損失）に比べ、大きく改善
- なお、2010年度業績予想の開示は、
第1四半期以降の見通しが不透明なため、差し控えた。
見通しがつき次第、開示する予定

受注高 事業セグメント別

ADVANTEST.



○ 2009年度の事業セグメント別受注高

○ 半導体・部品テストシステム事業

- ・前年度比63%増 425億円

(主な増加要因)

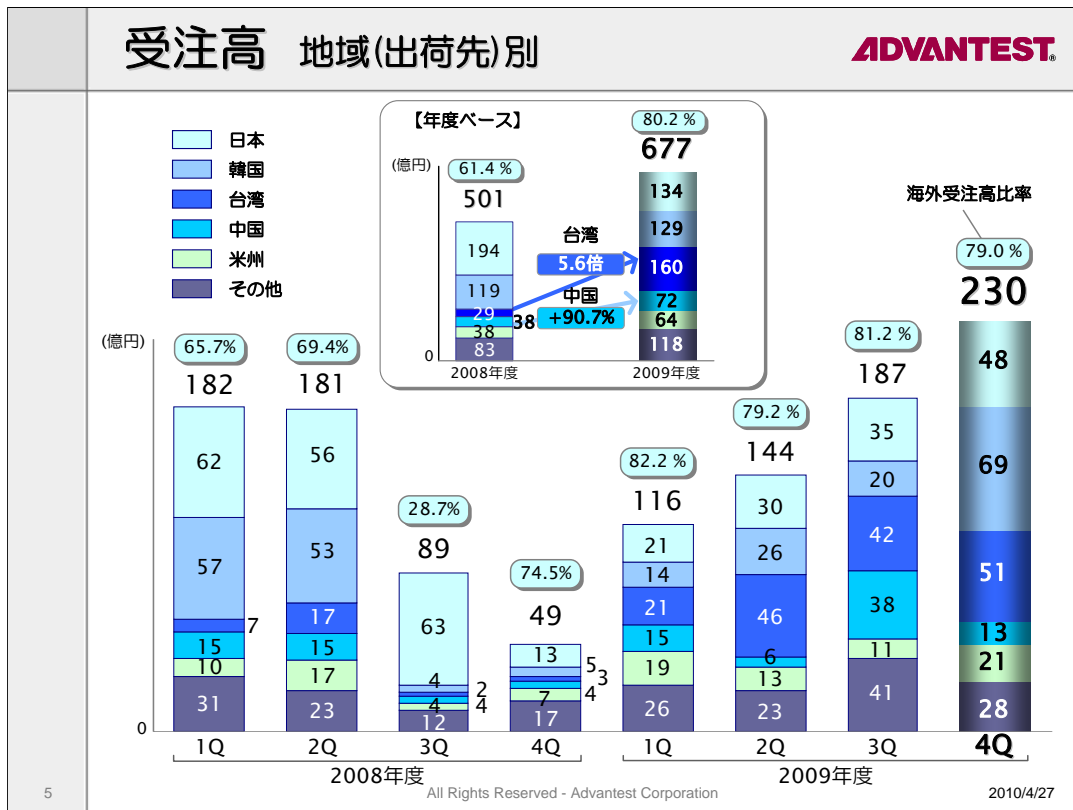
- ・非メモリ・テスト
 - ・MPU向け「T2000」
 - ・LCDドライバIC向けテスト
- ・メモリ・テスト
 - ・DDR3向けテスト

○ メカトロニクス関連事業

- ・前年度比63%増 148億円

(主な増加要因)

- ・テスト・ハンドラおよびデバイス・インタフェース
テスト受注の回復や新規顧客獲得に伴う受注増加



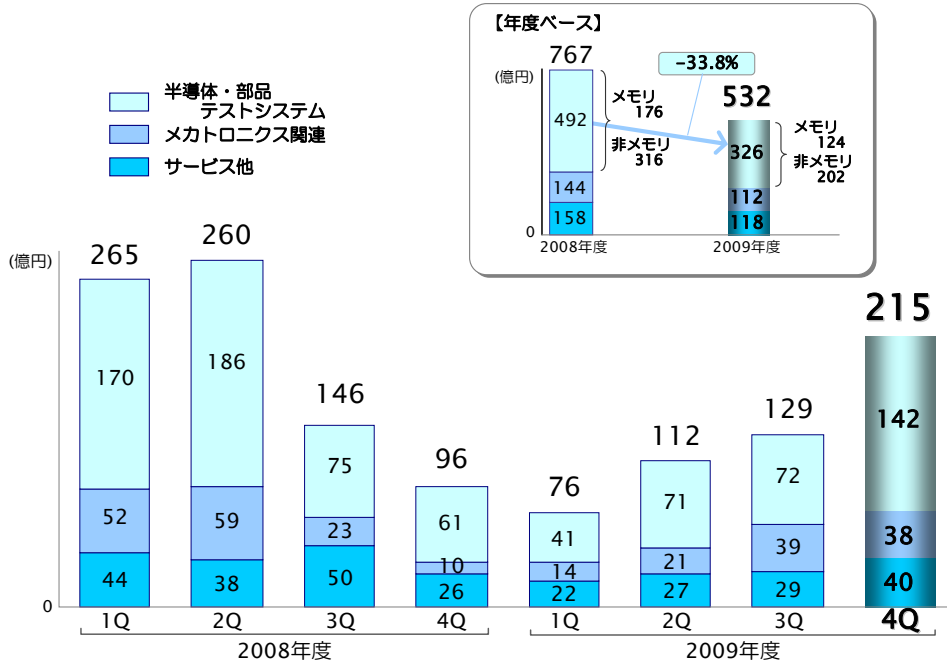
- 地域別受注高
 - ・台湾、中国で受注が大幅に増加

- 台湾
 - ・前年度比約5.6倍 160億円
 - (主な増加要因)
 - ・DDR3後工程向けやLCDドライバIC向けが増加

- 中国
 - ・前年度比91%増 72億円
 - (主な増加要因)
 - ・MPUやMCU向けに「T2000」が増加

売上高 事業セグメント別

ADVANTEST



※合計にはセグメント間の内部取引の消去分が含まれております。

All Rights Reserved - Advantest Corporation

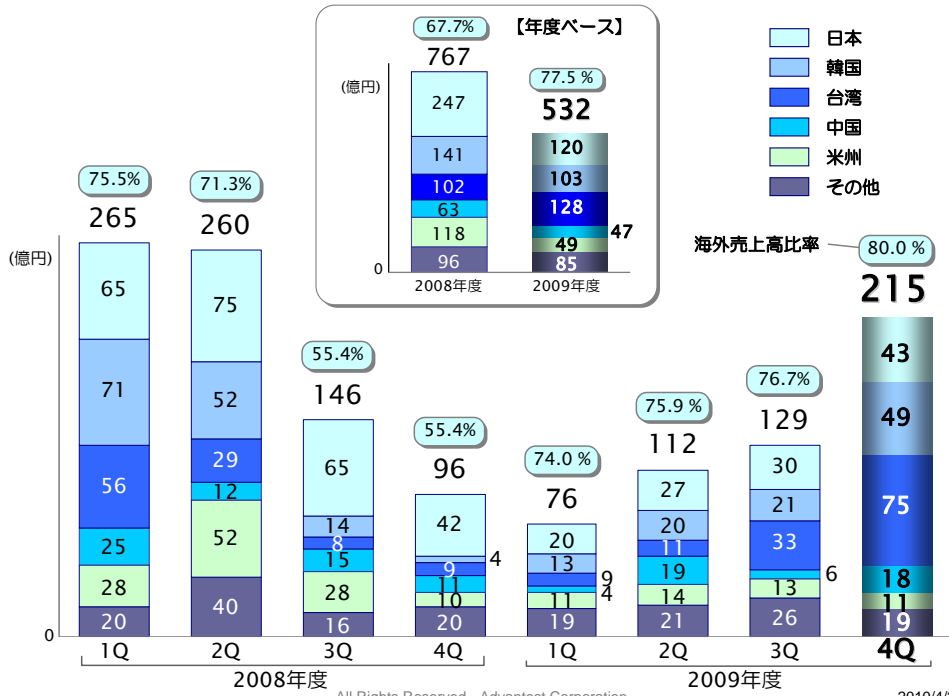
2010/4/27

- 事業セグメント別売上高
- 半導体・部品テストシステム事業
 - ・前年度比34%減 326億円

(主な減少要因)

- ・非メモリ・テストおよびメモリ・テスト、前期の大幅な受注の落ち込みの影響で、特に期の前半は売上が低調に推移した

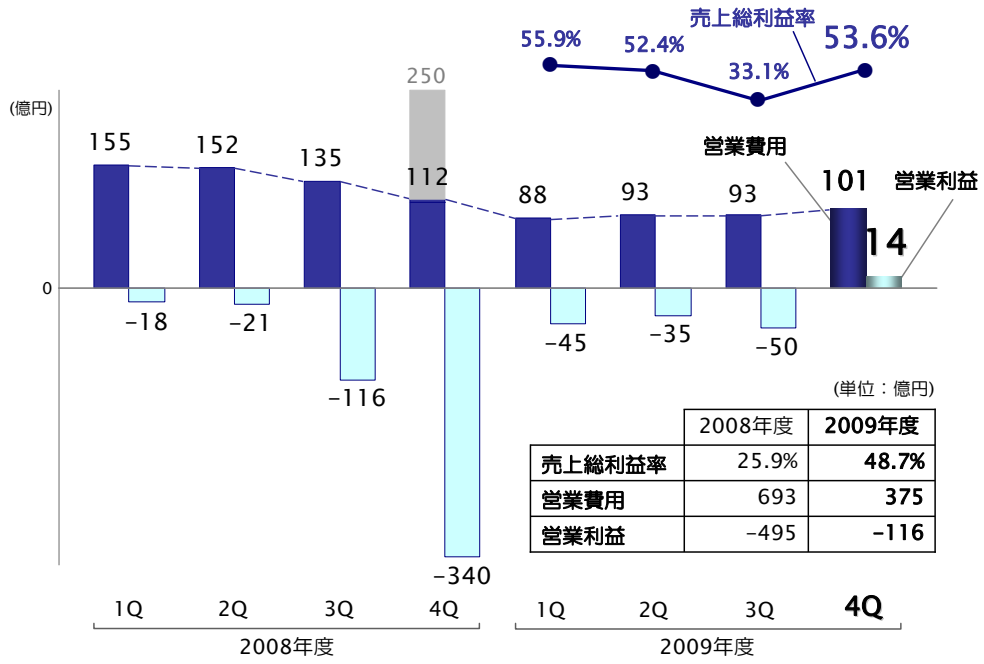
売上高 地域(出荷先)別



- 地域別売上高
- 台湾を除き、前年度比で減少

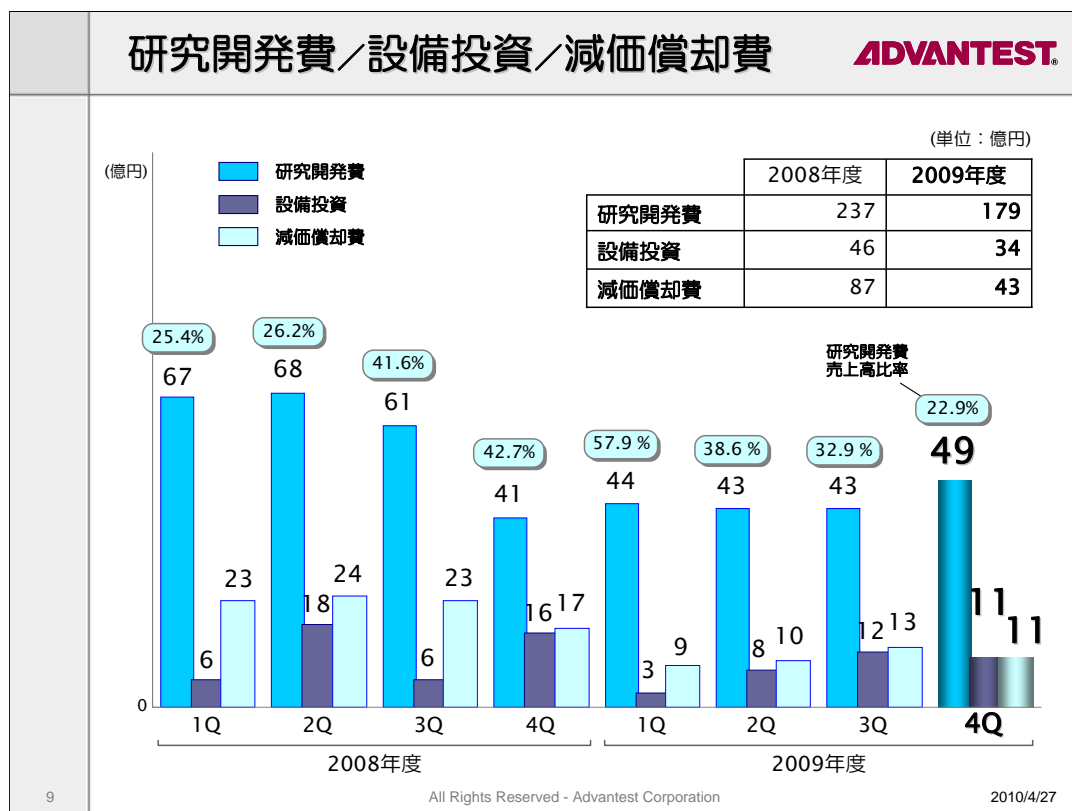
営業利益

ADVANTEST.



- 2009年度の営業利益
 - ・ 116億円の損失

- しかし、四半期ベースでは、
 - ・ 第4四半期に14億円となり、黒字に転換

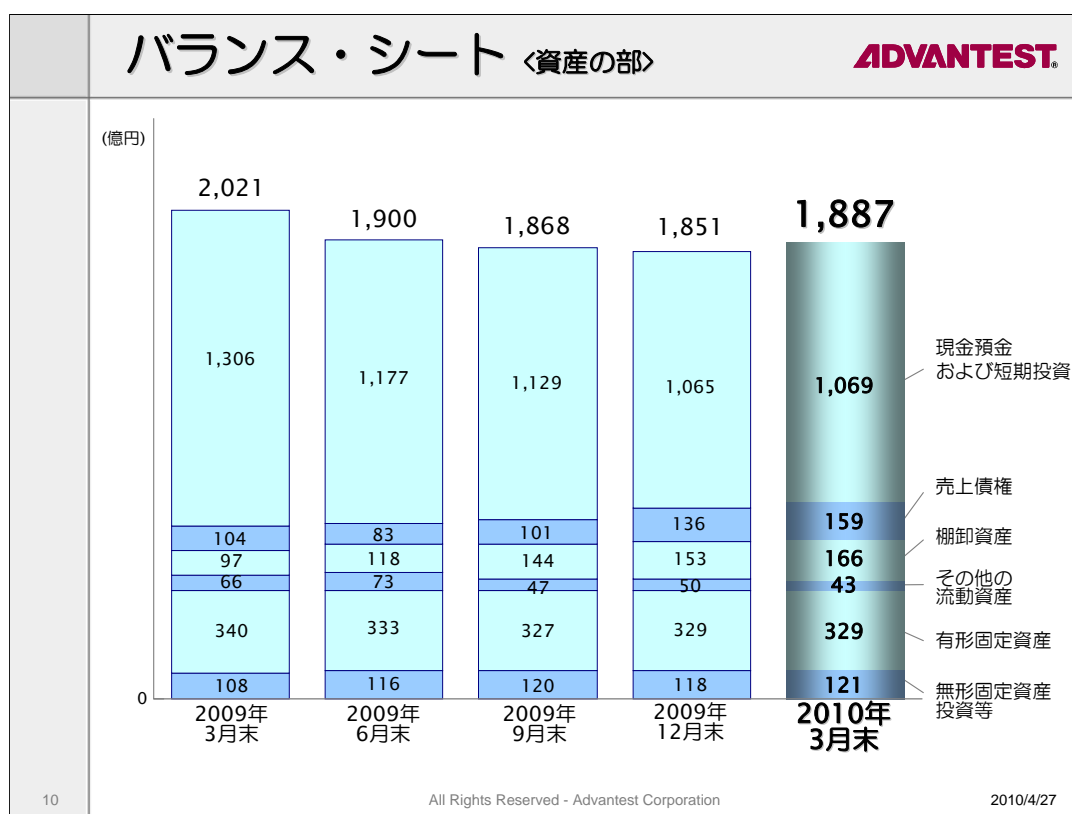


○ 研究開発費

- ・ 前年度比25%減の179億円
- ・ 2009年度は、
人件費を含めた経費の見直しを実施したため
前年度比で減少したが、
研究開発は当社の生命線であり、
成長のための開発投資は今後も継続して行う

○ 設備投資

- ・ 34億円に抑制
- ・ 主な用途は、開発、生産設備の更新



○ 2010年3月末現在のバランス・シート

○ 資産の部

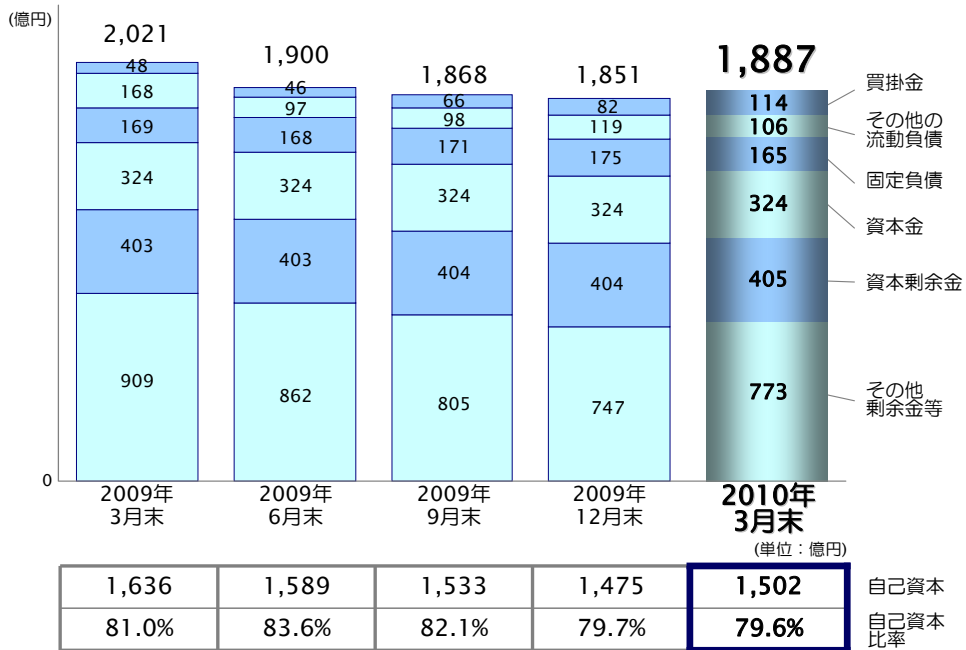
- ・ 現金預金および短期投資

- ・ 1,069億円

- ・ 1,000億円超のレベルを維持

バランス・シート <負債・資本の部>

ADVANTEST.



○ 負債・資本の部

- ・ 自己資本

1,502億円

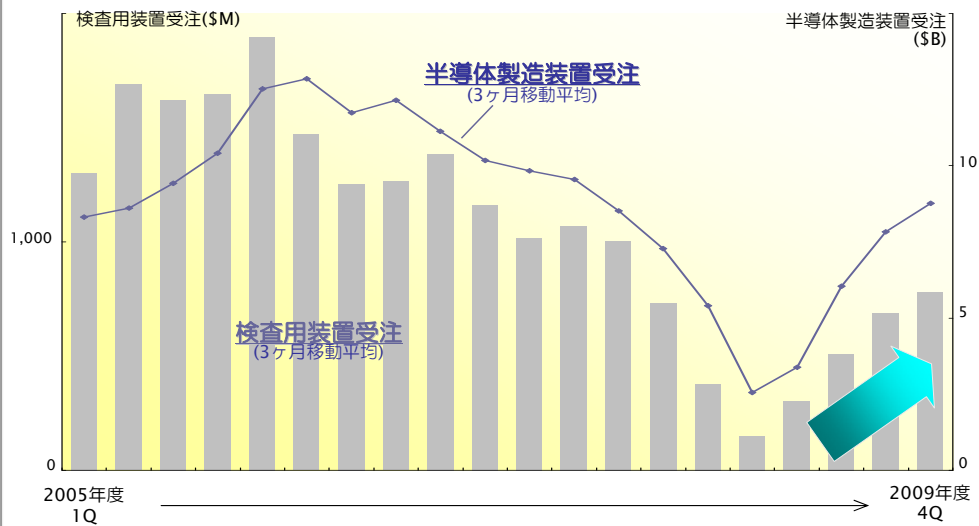
- ・ 自己資本比率

79.6%

80%前後の自己資本比率を維持

今後の見通し
業績回復はこれからが本番

- 次に、今後の見通しについて
- 当社を取り巻くビジネス環境は
日を追うごとに明るさを増している
- 業績回復はこれからが本番だと考えている



[Source: SEMI、SEAJ / 2009年度4Qは当社推定]

13

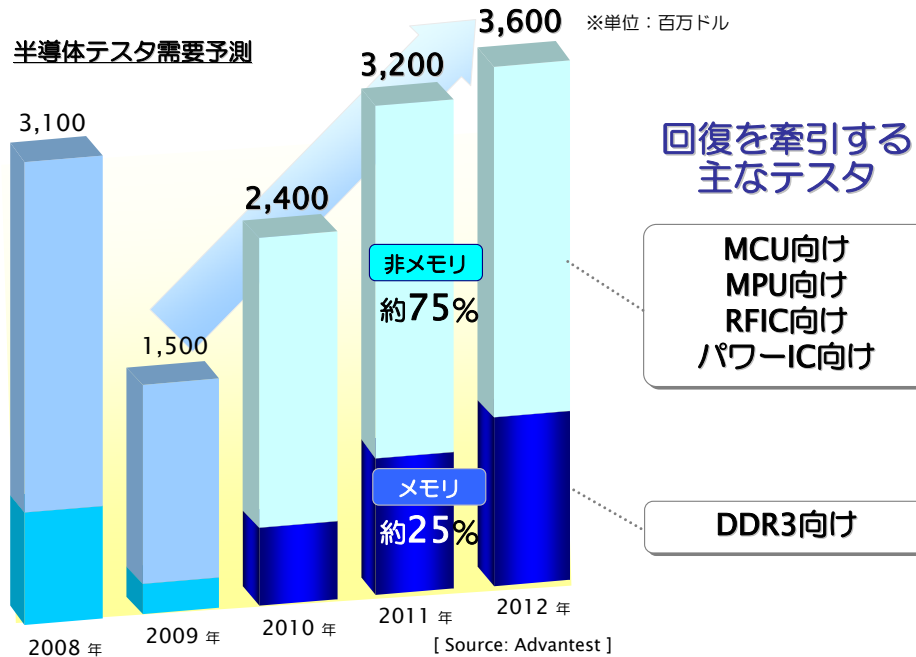
All Rights Reserved - Advantest Corporation

2010/4/27

- 始めに、当社を取り巻く環境について
- このグラフは、
2005年度第1四半期以降の
 - ・ 半導体製造装置
 - ・ 検査用装置
 の受注トレンドを示したものの
- いずれも、
2008年度第4四半期を底に回復傾向にある

本格的な業績回復局面へ

ADVANTEST.



14

All Rights Reserved - Advantest Corporation

2010/4/27

- このグラフは、現時点での、半導体テスタ市場の見通しを示したもの
- 今後もテスタ市場は右肩上がり成長し、2011年には2008年の規模を上回り、32億ドルにまで回復すると予想

(想定される主な成長要因)

- ① 企業によるIT投資の回復
- ② 新興国を中心とした個人向け半導体最終製品の需要増加 (パソコン、スマートフォン、自動車など)

↓

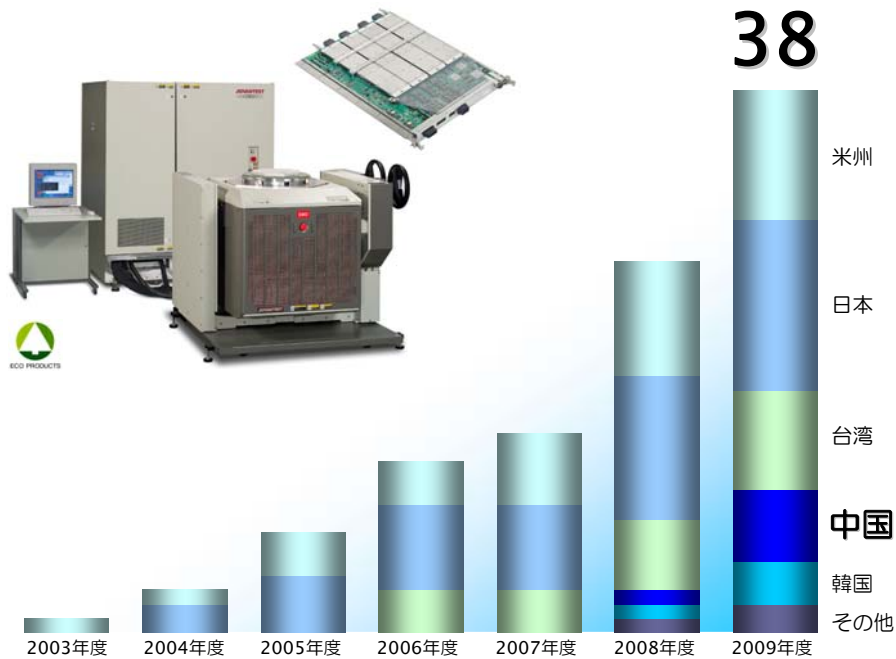
MCU、MPU、RFIC、パワー半導体、DDR3向けテスタ需要が増加

	<p>2010年度の主な施策 ADVANTEST.</p>
<p>15</p>	<p>1 半導体テスト市場でのシェア拡大</p> <p>＜非メモリ・テスト＞ 新規顧客開拓を強化 ＜メモリ・テスト＞ 高シェアを維持</p> <p>2 収益性のさらなる改善</p> <p>・設計品質の向上、開発工期の短縮 ・生産効率の向上と調達の最適化 ・ムダを徹底的に排除し、業務効率を改善</p> <p>3 新規事業の育成</p> <p style="text-align: center;">All Rights Reserved - Advantest Corporation 2010/4/27</p>

- このような環境における当社の主な施策について
- 1つ目は、
「半導体テスト市場でのシェア拡大を図る」こと
- 特に注力するのは、非メモリ・テスト市場
中長期的に目標とする市場シェアは30%
 - ・非メモリ・テスト市場は、
メモリ・テスト市場に比べて規模が大きい
(テスト市場全体の約75%)
 - ・アプリケーションの種類が多い
多様なテスト需要がある
 - ・T2000を軸に、新興市場を含め、
ワールドワイドに顧客の拡大を目指す

T2000ユーザの拡大

ADVANTEST.

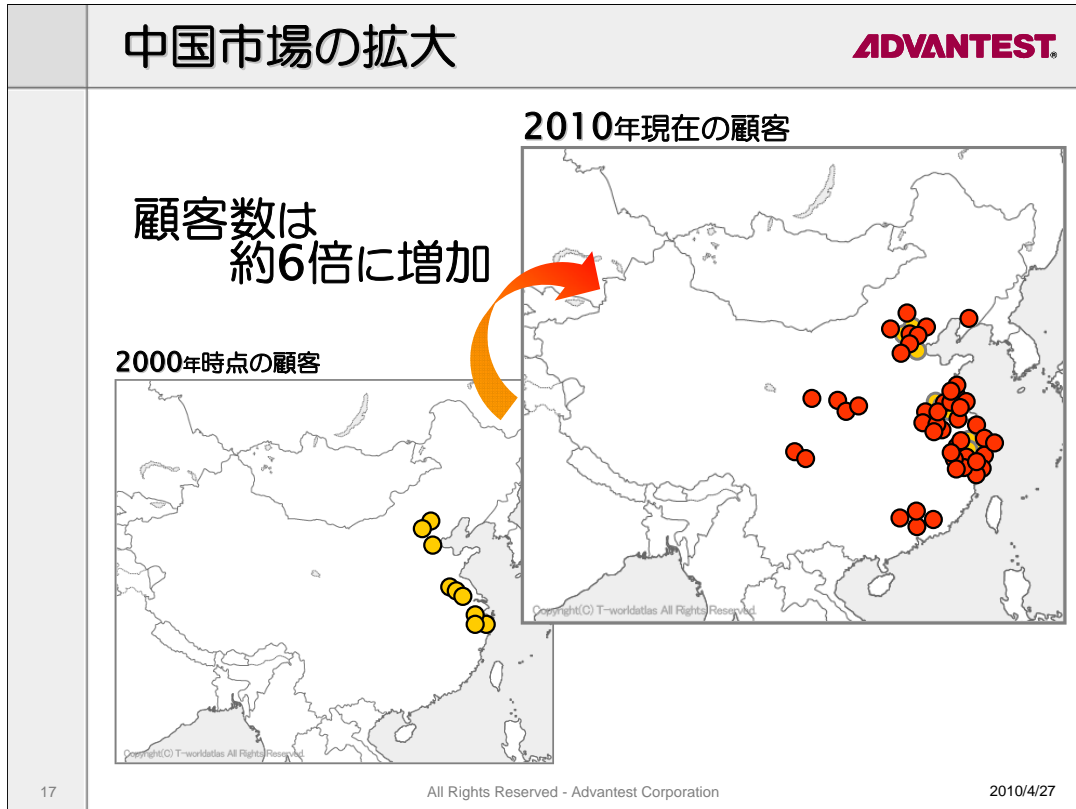


16

All Rights Reserved - Advantest Corporation

2010/4/27

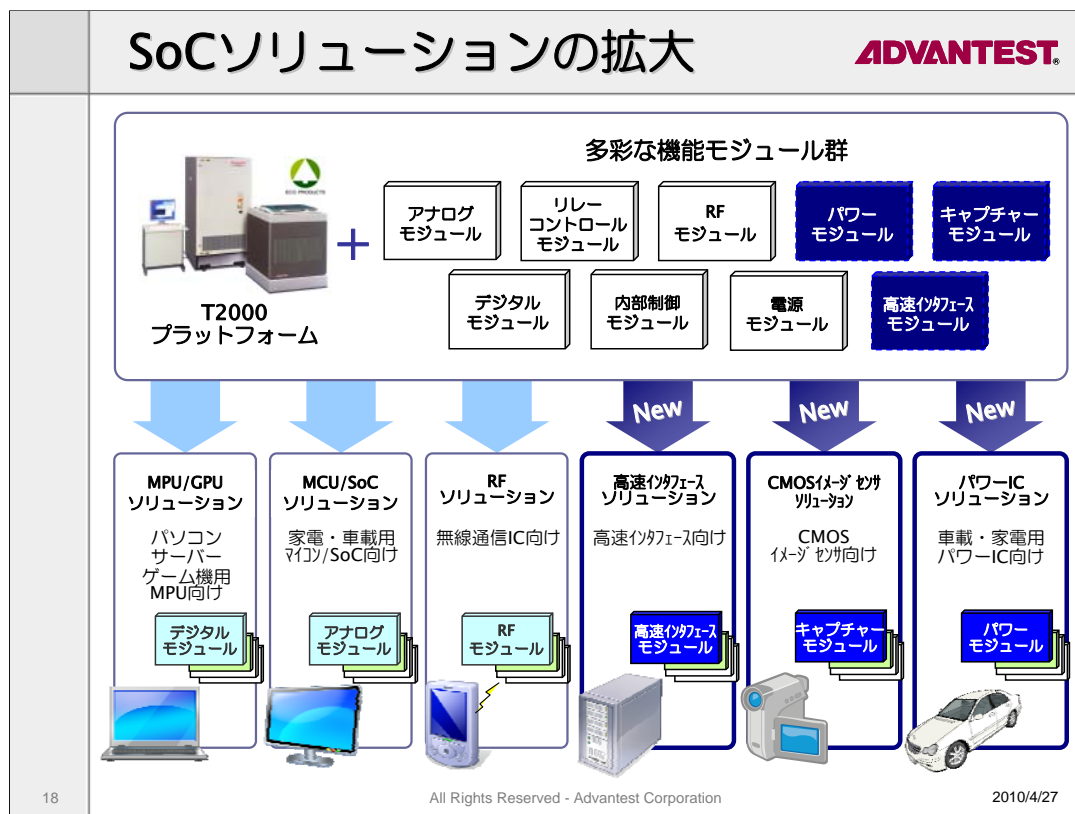
- 新興国でのテスト需要が増加する中で、T2000のユーザ数も拡大
 - ・ 地域別に見ると中国を中心とした、アジア地域のユーザの割合が増加
- 特に最近の中国は、携帯電話、デジタル家電など半導体最終製品の内需が拡大
 - ・ 半導体需要を生み出す巨大市場となり、外資系企業を含め、地場の半導体ファブレス企業やファウンドリも急増している



- 中国における当社の顧客の状況
- 2000年時点の顧客は、
中国に生産拠点を構える外資系企業を中心に
10社程度
- その後、
さらなる外資系企業の進出や
地場メーカーの増加などにより、
沿海部から内陸部にかけて、
2010年の顧客数は、2000年に比べ約6倍に拡大
- 当社は急成長しているこの中国市場において、
技術サポート要員を増やすなどの対策を行い、
積極的にビジネスを拡大していく

SoCソリューションの拡大

ADVANTEST.



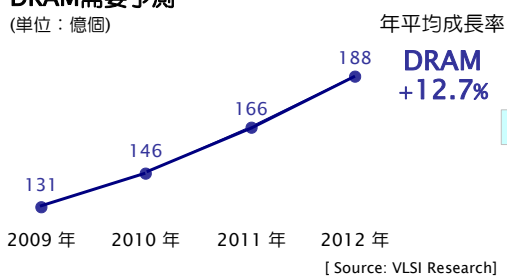
- 一方、アプリケーションの拡がりから非メモリ・テスト市場を見る
- シェア拡大の鍵
 - ・ 幅広いアプリケーションへの対応
 - ・ コスト・パフォーマンス
- 「T2000」のラインアップを拡充
 - ・ 今年度新たに、高速インターフェース、CMOSセンサー、パワーIC向けの機能モジュールを揃え、対応するアプリケーションを拡大
 - ・ 今年3月には、空冷構造を採用した、ローコスト・プラットフォームも新たにラインアップ
 - ・ さらに、当社は、高いスループットを実現できる技術を有しており、競合他社よりコスト・パフォーマンスの高い製品を展開できる強みを持っている
 - ・ これによりT2000のユーザ数をさらに増やし、非メモリ・テストの市場シェア拡大を図る

DDR3向けテスト 需要の本格化

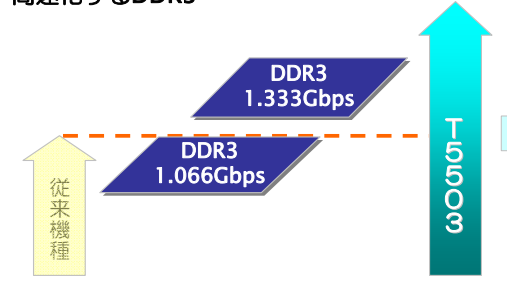
ADVANTEST.

DRAM需要予測

(単位：億個)



高速化するDDR3



前工程向け「T5385」



↓ 業界最高のスループットを実現 ↑



後工程向け「T5503」

19

All Rights Reserved - Advantest Corporation

2010/4/27

- 次に、メモリ・テストの市場では、現状の高いシェアを維持拡大する
- メモリ・テスト需要の牽引役は、DDR3向けテスト
(理由)
 - ・ 左上の表にあるとおり、DDR3を中心としたDRAMの出荷数は、企業のIT投資の再開などにより、2012年にかけて年平均約13%伸びる
 - ・ DRAMの出荷数が増えると共に、微細化が進展し、チップの駆動速度が高速化
- 当社はすでに、業界最高のスループットを誇る「T5385」「T5503」などを市場に投入済み
これらのテストを中心に売上拡大を図る

	2010年度の主な施策 ADVANTEST.
20	<div style="text-align: center;"> <h2 style="color: #ccc;">1 半導体テスト市場でのシェア拡大</h2> <p style="color: #ccc;"> <非メモリ・テスト> 新規顧客開拓を強化 <メモリ・テスト> 高シェアを維持 </p> <h2 style="color: #000;">2 収益性のさらなる改善</h2> <ul style="list-style-type: none"> ・ 設計品質の向上、開発工期の短縮 ・ 生産効率の向上と調達の最適化 ・ ムダを徹底的に排除し、業務効率を改善 <h2 style="color: #ccc;">3 新規事業の育成</h2> </div> <div style="text-align: center; font-size: small; margin-top: 10px;"> All Rights Reserved - Advantest Corporation 2010/4/27 </div>

- 2つ目は、収益性のさらなる改善
- 主に取り組むのは、
 - ・ 設計品質の向上と開発工期の短縮
 - ・ 生産効率の向上と調達の最適化
 - ↓
 - 製品競争力の強化と機会損失の回避
 - ・ ムダを徹底的に排除し、業務効率を改善
 - ↓
- 連結子会社の吸収合併
 - ・ 2010年7月1日付で、
いずれも当社100%出資の連結子会社で、
製造会社と保守・サポート会社の2社を吸収合併
 - ・ 開発、製造、販売、保守という
一連の業務プロセスを顧客目線で見直す
 - ・ 市場環境の変化に対応し、
経営のスピードアップと一層の効率化を図る

	2010年度の主な施策 ADVANTEST.
21	<p>1 半導体テスト市場でのシェア拡大</p> <p><非メモリ・テスト> 新規顧客開拓を強化 <メモリ・テスト> 高シェアを維持</p> <p>2 収益性のさらなる改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 設計品質の向上、開発工期の短縮 ・ 生産効率の向上と調達の最適化 ・ ムダを徹底的に排除し、業務効率を改善 <p>3 新規事業の育成</p>
	<small>All Rights Reserved - Advantest Corporation</small> <small>2010/4/27</small>

- 最後は、新規事業の育成
- 現在、取り組んでいる新規事業
 - ・ 半導体テスト分野
 - ・ 新コンセプト・テストNPX (New Platform X)
 - ・ プローブカード
 - ・ 次世代デバイスに対応した新テスト手法
 - ・ 非半導体テスト分野
 - ・ テラヘルツ・3Dイメージング・システム
 - ・ その他、複数プロジェクトが進行中
 - ・ テラヘルツ・3Dイメージング・システムは、実際に市場への投入を開始。製品への引き合いも増えてきており、早期に売上貢献できるように注力していく
- 以上の取り組みにより、利益拡大を図る

ご注意

- ◆ 当社は米国会計基準を採用しております。
- ◆ 将来の見通しに関する記述について
本プレゼンテーション資料およびアドバンテスト代表者が口頭にて提供する情報には、当社の現時点における期待、見積りおよび予測に基づく記述が含まれています。これらの将来の事象に係る記述は、当社における実際の財務状況や活動状況が、当該将来の事象に係る記述によって明示されているもの又は暗示されているものと重要な差異を生じるかもしれないという既知および未知のリスク、不確実性その他の要因が内包されています。